発行日　平成２５年 ３月　　会報第１１７号

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会
MANO a MANO

～「mano a mano」とはスペイン語で「手から手へ」という意味です～

「フットケア学会に行ってきました」

当研究会評議員
東京医科大学八王子医療センター　松尾 美穂［看護師］

２月９日・１０日横浜で開催された「第１１回日本フットケア学会・第５回日本下肢救済・足病学会 合同学術集会」に参加してきました。多くの糖尿病関連学会と比較すると外科系の医師が、多く参加されていることが特徴だと思います。

当センターでも４年前より「フットケアチーム」を立ち上げました。足病変患者と関わる診療科の医師・看護師と時間外に勉強会や症例検討などを重ねながら２カ月前からは、院内の足病変患者のラウンドを開始するまでになりました。立ち上げの際、外科系の医師は「外科は足を切るだけだよ」と話していましたが、今では糖尿病の足病変の予防の重要性について一番熱く語り協力して頂いています。患者さんへの足病変についての指導が必要な事はいうまでもありませんが、当センターにおいては足について看護師への教育が最も課題でありました。糖尿病の専門病棟に入院した患者さんにおいては全例入院時に足を看護師が観察し、集団教室と個人指導でフットケアについて指導を行います。しかし、大学病院には他の疾患で多くの糖尿病患者さんが入院しています。他病棟に入院し糖尿病がある場合、看護師はインスリン指導と低血糖指導が主であり、それ以外の患者教育はなされていないのが現状です。看護師が患者さんの足に注目し、観察し教育すれば今よりも足を失う患者さんは減るはずです。看護師対象の勉強会やフットケアチームの活動等が少しずつですが院内に周知されるようになってきました。

１年ほど前に眼科病棟から足を見てほしいという依頼がきました。その方は５０代の男性ですが糖尿病網膜症にて視力がほとんどなく腎症もあります。眼科病棟に入院した際に看護師が足を見せて頂くとすべての爪が指先の裏まで伸び皮膚に食い込んでいました。目が見えないため、爪をずっと切れなかったそうです。時間をかけ爪を１本１本切っていきました。一部潰瘍化しているため翌日、皮膚科を受診して頂き、入院中、眼科病棟の看護師は毎日足を洗い処置を続け、その方は退院されました。今では傷は綺麗に直り、月に１回フットケア外来に通院されています。退院した最初の外来でその方は「看護師さんが一生懸命、足を毎日処置してくれて指を失わずに済みました。まだ自分に出来ることはあると思って腎臓だけは守ろうと思い努力しています。」と話してくれました。眼科病棟で患者さんに足を最初に見せてくださいと話した看護師はこの患者さんの足を切断から守り、更に腎臓を守りたいと患者さん自身が思えるよう、とても大きな変化をもたらしました。腎機能も１年間大きな変化なく経過しています。

まだまだ、たくさんの課題はありますが、足を守りたいという思いを常に持ち、皆と協力していきたいと思います。

読んで単位を獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士（ＬＣＤＥ）は、更新のために５年間に５０単位を取得する必要があります。当研究会会員は、会報「Ｍａｎｏ ａ Ｍａｎｏ」の問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、１年につき２単位（５年間で１０単位）を獲得できるようになりました。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導に役立ててください。

（「問題」は、過去のＬＣＤＥ認定試験に出題されたものより選出しております。）

『問題』 インスリン注射液の保存方法について、正しいのを一つ選んで下さい。

１．常に冷所保存とし、２５℃以下の暗い所に保存する。
２．やむを得ない事情を除き凍結または４０℃以上の場所での保存はしない。
３．冷蔵庫内の保存は、冷気の吹き出し口を避け庫内の下の方に保存する。
４．旅行中、紛失を防ぐため観光中は車のトランクやダッシュボードへ保管する。
５．短期間の旅行中は、常温保存で良い。

（答えは７ページにあります。）

研究会等の実施報告

西東京ＣＤＥ研究会 第11回症例検討会

平成25年1月24日（木）立川市女性総合センターアイムにて開催されました。

研修会の実施報告　**当研究会会員　日本医科大学多摩永山病院　亀山 明美**［薬剤師］

毎年開催されている症例検討会は、今回糖尿病腎症をテーマに１月２４日１９時から国分寺労政会館第３会議室で行われました。

「透析予防カンファレンス～糖尿病腎症Ⅲa期の患者へのアプローチ～」という題で、公立昭和病院 深谷清先生が、症例を提示しました。「６６歳男性。HbA1c11%、BUN23.6、Cre0.93、尿蛋白2＋、e-GFR60.6。インスリン注射と降圧剤服用中。朝食前に運動し、低血糖を頻回起こす。食事は指示量1680kcalを守れず独自の習慣で2000kcal以上摂取。」腎症Ⅲa期である本症例患者に対し、どのような透析予防指導を行うべきか、３７名の参加者が４つのグループに分かれて、ディスカッションを行い、各グループの代表が検討内容を発表しました。運動時間、運動強度、食事の見直し、服薬状況やインスリン手技の確認、奥様にも指導に参加してもらい食事や生活習慣について説明する等、沢山の意見が挙がりました。グループ発表の後、コメンテーターの総合新川橋病院 渡辺妙子先生が、糖尿病腎症について、最新の治療をスライドで提示しながら説明されました。

平成２４年度診療報酬改定で糖尿病透析予防指導管理料が新設され、透析予防指導を開始したばかり、又は、今後導入予定の施設が多い中、参加者から積極的な意見が多く出され、盛況の中、終了となりました。

研修会のご感想①　**当研究会会員　河北医療財団 河北総合病院　野﨑 房代**［看護師］

平成２４年４月から透析予防指導管理料が診療報酬で加算できるようになった。各病院でも、既に取り組んでおられる病院、準備をしている病院と活性化している。

透析予防チームの中での看護の支援目標としての私の考えは、チームでの対象患者の病気を明確にし、共有することで、腎症の病期を１つ前に戻す、最低でも維持することだと考えており、今回の症例検討会では具体的な方法を知ることが出来た。

グループに分かれた症例検討会では、各グループとも患者自身を受け入れ、認めていくという指導の原点である姿勢が明らかになっており、感心した。コメンテーターである総合新川橋病院の渡辺妙子先生から、「患者が透析になる確率、時期を明確にし、現在の患者の立ち位置を教え、どうすれば現状から遠くなるのか」を教えることが大切とのご意見をいただいた。緑風荘病院の西村一弘先生からは「腎臓がどういう風に悪くなっているのか病理写真を見せて説明している」という具体的なお話も聞け、透析予防チームの一員である患者自身が、自分の腎臓の事を知っていくことが重要だと改めて認識した時間になった。

研究会等の実施報告

研修会のご感想②

当研究会会員　高村内科クリニック　中野 貴世［管理栄養士］

「透析予防カンファレンス～糖尿病腎症Ⅲa期の患者へのアプローチ～」というテーマでしたので、腎疾患に少し苦手意識がある私は、日常の業務に活かすために思い切って参加しました。

症例提示は、実際に担当していらっしゃる管理栄養士からの説明があり、今後どうするか迷っていらっしゃる例でしたので、患者さんに少しでも役立つように、参加者も熱心に考えました。

グル―プワークは、ファシリテーターも入ってくださり、看護師・薬剤師・管理栄養士のそれぞれの立場と療養指導士としての経験を生かして活発な意見が出て、私のグループでは、本人の今までやってきたことを認め、本人がどうしたいかをしっかり聞き取ること、提案に対しての実施状況の確認、本人の将来の気持ちを聞くなどの意見が出ました。管理栄養士からは、ナトリウムの代謝を腎臓の構造や機能を合わせて説明すると、本人自身で考え、ナトリウムの摂取量が減るとの話もあり、大変参考になりました。グループ発表もそれぞれのグループでアプローチの仕方が工夫されていて大変参考になりました。

渡辺先生の話は、具体的に患者さんには、腎機能が何％です、今の立ち位置の説明、尿検査で随時尿でも尿たんぱく質の定量検査を行うと腎機能の判定に役立つことなどを聞き、今後の指導に役立つお話が印象に残りました。

Ⅲa期の食事療法の理解はとても大切で、改めてしっかりとかつ患者さんの立場に立った療養指導の確認ができた検討会でした。

第30回 東糖協多摩ブロック糖尿病教室

平成24年12月8日（土）パルテノン多摩にて開催されました。

平成２４年１２月８日（土）午後２時より多摩市のパルテノン多摩 第一会議室におきまして、「第３０回東糖協多摩ブロック糖尿病教室」が６５名の参加者を集めて開催されました。

会の冒頭に日本糖尿病協会 東京都支部 副会長 クリニックみらい国立 院長 宮川高一先生より開会の挨拶がございました。続いて東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科科長 大野敦先生の座長のもと、多摩センタークリニックみらい 栄養士 國貞真世先生・院長 藤井仁美先生から特別講演「当世糖尿病食事事情～２４時間持続血糖曲線から見た食事と血糖のアブナイ関係」を御講演頂きました。食後高血糖改善の重要性や食事療法のコツなど幅広く解説していただきました。講演後には会場からの質問にもお答えいただきました。

第２部の『ぜひ聞きたい！あんな疑問？こんな疑問？コーナー』では多摩センタークリニックみらい 副院長 渡邊祐子先生の司会のもと、東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科 助教 松下隆哉先生、ウラン薬局 薬剤師 浅田美子先生、東京医科大学八王子医療センター 栄養管理科 永田美和先生、多摩センタークリニックみらい 看護師 星一代先生の４名をコメンテーターにお招きし、会場からの糖尿病に関する疑問・質問にお答えいただきました。

研究会等の実施報告

第1回・第2回 介護福祉関連職種を対象とした糖尿病セミナー

第1回　平成24年12月12日（水）、
第2回　平成25年　1月16日（水）至誠デイケアセンターにて開催されました。

研修会の実施報告　**当研究会会員　河北医療財団 河北総合病院　　野崎 房代**[看護師]

高齢糖尿病患者数の増加を背景に、介護施設などの現場では否応なくインスリン注射などの職種を超えた業務拡大、患者の受け入れ、シックデイの対応の判断が問われ、負荷が増加しつつあります。専門職種が少ないこれらの現場の職員の知識やスキルの向上を目指すことが糖尿病患者の療養の質の向上につながると考え、今回、至誠ホーム、在宅ヘルパー（看護師）向けセミナーを平成２４年１２月１２日と平成２５年１月１６日の２回に分けて開催しました。

１回目は①糖尿病とは②フットケア③食事についての３つを医師、看護師、管理栄養士が担当し、２回目は①薬物療法②インスリンデバイスを体験してみよう③シックデイルールを薬剤師が担当して講義をさせていただきました。

参加者は１回目３６人、２回目４２人と大変多くの方に参加していただきました。

講義後の質疑応答も沢山の質問があり、糖尿病に対して興味を持っていることが分かりました。インスリンデバイスでは、触ったことがない方がほとんどであり、実際に触れてみて良かったという声が多く聞かれました。私たちも、初めて触れる人が何処に戸惑うのかが分かり、大変参考になりました。講義後のアンケートでは評価は概ね良好でした。

【第1回】平成24年12月12日開催

【第2回】平成25年1月16日開催

研修会のご感想　**社会福祉法人至誠学舎立川 至誠ホーム 副センター長　　松田 光子**

至誠ホームにて平成２４年１２月１２日と平成２５年１月１６日の２回に渡り「介護福祉関連施設を対象とした糖尿病セミナー」を開催していただき、在宅で生活しながら介護サービスを利用されている利用者さんに関わっているデイサービスの相談員・介護職・訪問介護のサービス提供責任者・ヘルパーが受講しました。

介護サービスを利用している利用者の方々で「糖尿病」と診断され服薬、インスリン注射、透析を受けている方も多くいますが、参加した職員が以前「糖尿病に関する勉強会」に参加した割合は３割程度という状況のなかで、系統的に学ぶ機会を得ることができました。

講義のなかで、１回目の「フットケア」について受講した職員の関心が高く、普段ケアにあたるなかで利用者さんにとり身近な距離にいるため、ちょっとした変化に気付きケアマネジャーや医療職へ情報提供ができるようにと考えさせられたようです。また、「食事について」は、あらためて食事の大切さを考えさせられ、職員自身の食生活について見直す機会にもなったようです。

今後このような機会がありましたら、「認知症」と「糖尿病」に関連する話を聞けたらと希望します。

研究会等の実施報告

平成24年度 北多摩南部保健医療圏 糖尿病医療連携検討会
（第２回 北多摩南部スキルアップセミナー）

平成25年1月27日（日）東京慈恵会医科大学附属病院にて開催されました。

研修会の実施報告　**当研究会評議員　かたやま内科クリニック　片山 隆司**[医師]

平成２５年１月２７日（日）に慈恵医大第三病院（狛江市）において、北多摩南部保健医療圏糖尿病医療連携検討会主催、ＮＰＯ法人西東京臨床糖尿病研究会後援にて北多摩南部での本年度スキルアップセミナーが開催されました。

『一日で卒業！実践糖尿病連携セミナー』というタイトルで、今回は医科 - 歯科の連携をメインテーマとしました。午前中は２つの教室で医科、歯科に分かれ医師向けセミナーでは吉元勝彦先生が糖尿病の診断と初期指導を、片山が経口薬の使い分けの講義を行い、歯科向けセミナーでは辻野元祥先生が糖尿病総論を、藤田進彦先生が連携手帳の活用術の講義を行いました。昼のランチョンセミナーからは合同で糖尿病食を体験しながら、江川正雄先生・小池日登美先生に食事・運動のワンポイントアドバイスをいただきました。

午後はミニレクチャーとして森本彩先生が合併症の話を、歯科の入江功先生が歯周病の話を行い、その後パネルディスカッションとして症例を交えて各科からの質疑応答を行いました。

どの講演も最新の情報が豊富で、多くの参加者の先生方が熱心にメモをとられ、質疑に参加下さり“一日で卒業”のタイトルに相応しい有意義な会となりました。

医師・歯科医・コメディカルの方々、総勢５５名の参加でしたが、多くの先生方が“参加してよかった・継続参加を希望する”等の反響を得ることができました。

研修会のご感想　**当研究会会員　おぎもとクリニック　野田 真弓**[看護師]

一日で卒業！！実践糖尿病連携セミナーというテーマで、内科と歯科の先生方の講演があり、コメディカルの参加も多数ありました。

午前の部は、糖尿病の診断と初期指導、最新経口血糖降下薬について、とても解りやすい講義があり、最新の情報を得ることが出来ました。ランチョンセミナーでは、糖尿病食を実際に体験しながら、明日から使える食事・運動療養指導の具体的なコツを教えて頂きました。午後の部では、糖尿病第６の合併症と言われる歯周病と糖尿病の関係について講演がありました。その中で医科・歯科の先生方による症例検討がパネルディスカッション形式で行われ、歯科では病状が十分把握できない中で治療が行われている現状を知り、歯科の先生方のご苦労と医療連携の必要性を感じました。歯周病と糖尿病の濃厚な関連から、歯の手入れの重要性を再認識しました。今後は、糖尿病連携手帳に歯周病の欄がある事を患者さんに伝え、効果的な連携ツールとして啓発していきたいと思いました。

今回のセミナーは最新の知見に加え、他職種が参加する会であったため、お互いの共通認識形成ができる非常に有意義なセミナーでした。また機会があれば是非参加したいと思います。ありがとうございました。

研究会等の実施報告

糖尿病災害医療対策プロジェクト中間報告

平成25年1月27日（日）立川市女性総合センターアイムにて開催されました。

Aチームの報告
（メディカルスタッフ向けマニュアル作成チーム）

当研究会評議員
武蔵野赤十字病院　　豊島　麻美［看護師］

『トリアージタッグ「緑」！の糖尿病患者さんを支援する・使えるマニュアルを目指して』

糖尿病を持つ人が震災被害にあった時、大きな外傷がない限りトリアージタッグは「緑」となります。生命の危機を脱した次に待ち受ける困難は、限られた薬物・食糧配給の中、インスリン治療をはじめとする自身の療養生活を維持・管理する力を発揮すること。それを支援する医療者は必ずしも「糖尿病」をよく知る人とは限りません。その意味で、糖尿病を持つ人の救済・支援をする方向性を示すことは、糖尿病医療のスペシャリストが果たす重要な役割といえます。

当研究会の「糖尿病災害医療対策プロジェクト」のうち糖尿病を専門としない医療者に向けたマニュアル作成班は、西東京地域をＭ７クラスの首都直下型の地震が襲った場合「建物倒壊と焼失」が主な被害になると想定し、１．備えることの重要性を啓発する、２．超急性期支援に優先される・生き延びるための支援、３．時間経過とともに変わる支援にポイントを絞り議論を重ねて参りました。

３月１１日のメモリアルデーは、本マニュアルの「真の誕生日」であり、これがより良く成長するためには、皆様との熱いディスカッションが必要と考えます。ぜひ当日は多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

Bチームの報告
（患者向けマニュアル作成チーム）

当研究会評議員
杏林大学医学部付属病院　　小林　庸子［薬剤師］

１年程前、“災害対策をやりませんか？”の一言から発足したプロジェクトであり、患者用マニュアルを作るＢチームとして活動を開始した。チームは、医師・看護師・管理栄養士・薬剤師と多職種であり、東日本大震災のボランティア参加者、参加者から話を聞いた、さらに阪神大震災を経験した、というメンバーである。

はじめに、サイズを検討しＡ４サイズの冊子「糖尿病災害時サバイバルマニュアル」（以下Ａ４冊子）、財布などに常備できる携帯用マニュアル、病院や薬局などに掲示するためのポスターの３点を作成することとした。Ａ４冊子は、時期を準備期（今からできること）、超急性期（発災～７２時間）、急性期（～１週間）、亜急性期（～１か月）とし、各職種からのアドバイスを詳細に掲載した。携帯用マニュアルには、Ａ４冊子から抜粋した内容とした。さらにＡ４冊子にはイラストをプロの方にお願いした。イラストの打合せは初めて医療者以外の方にお見せする機会であったが、“うちにも年寄りがいるのでとても参考になります”と、ありがたいお言葉をいただいた。“療養指導がマンネリ化している”場合には、サブタイトルの「自分のことは自分で守れる」ためにご活用いただければ幸いである。

研究会等の実施報告

Ｃチームの報告
（実行部隊の組織化・組織づくりチーム）

当研究会理事
緑風荘病院　　西村　一弘［管理栄養士］

本プロジェクトは、昨年の６月２４日（日）に行われた「糖尿病災害医療対策プロジェクト キックオフ講演会」の際に、西東京地域の糖尿病災害医療における連携を目的に始まったプロジェクトチームであります。

Ｃチームは実行部隊の組織化・組織づくりのためのプロジェクトとして、活動がはじまりました。第１回目の会議から災害発生直後のインスリン供給体制について議論がはじまり、そのための仕組みづくりの重要性が提唱され、二次医療圏毎の拠点整備が検討されました。２回目以降はインスリンメーカーや薬剤問屋にもご協力をいただき、検討を繰り返しました。

その後『糖尿病災害時地域ステーション』という名称で、インスリンを取り扱う機会が多い地域の基幹病院の薬剤部や保険薬局等を対象に、インスリンのランニングストックをしていただけるよう、呼びかけを行い、１月末には７施設から賛同を得ることができました。

現在は２次募集を実施し、１１施設に協力を得ることができましたので、災害プロジェクトＣチームの活動経過としてご報告します。

◇◇教えて！糖尿病Ｑ＆Ａ◇◇

Q.

質問者：匿名［外来担当看護師］

最近高齢者の糖尿病患者さんが増加しています。この中には認知症が疑われることがありますが、MMSEや長谷川式の質問をするには患者さんのプライドを傷つけることもあります。認知症を診断する良い方法はありますか。

A.

回答者：東京医科大学八王子医療センター　　植木 彬夫［医師］

薬が何日分も残っていたり、インスリンが冷蔵庫の中に何本も残っている、突然コントロールが悪くなる、約束した日に来院しない、などは認知症を疑う所見です。このようなときに、HbA1cや血糖値を見ながら、「今日の値は良い（少し高い）ですね。夕べはどんなもの食べたの？」と会話の中で自然に昨夜の食事を聞いてみてください。「忘れた。いつものと同じ。たいした物食べてないよ。」などの答えの時には認知症の可能性があります。また、記録を付けながら「あれ、今日は何日だっけ？」と忘れたふりをして聞いてみてください。テレビ見なかったので、新聞読まなかったので、など取り繕った答えの時も可能性があります。

《広報委員会より》連載コラム「糖尿病と眼」第３回は、執筆者のご都合により今月号はお休みし、来月号で掲載致します。また、平成２３年１０月第１００号より始まりました『教えて！糖尿病Ｑ＆Ａ』は今月号で終了致します。ご愛読いただきありがとうございました。来月号より新コーナーがスタートする予定ですのでお楽しみに。
会員の皆様よりご意見、ご要望がございましたら是非お寄せください。

宛先（ご意見受付専用）：qanda@lagoon.ocn.ne.jp

読んで単位を獲得しよう

『答え』　**5**　　下記の解説をよく読みましょう。（問題は１ページにあります。）

『解説』　糖尿病療養指導ガイドブック2012（メディカルレビュー社）p.92 表44そのままの問題です。

1：× 未使用のインスリンは原則として冷所保存で、２～８℃の冷蔵庫に保存する。
2：× 凍結または４０℃以上の場所での保存は厳禁。「やむを得ない事情」はない。
3：× 冷蔵庫の扉の段の上に保存。
4：× 高温となるため、トランクやダッシュボードへの保管は厳禁。
5：○ 未使用のものであっても短期間であれば常温保存で構いませんが、直射日光等には注意が必要です。

研究会他のお知らせ

◆直接事業 ◆間接事業 □その他

□第３１回 東糖協多摩ブロック糖尿病教室　第１９回 西東京糖尿病患者会連合特別講演会 申込不要

開催日：平成２５年３月９日（土）１３：１５～１６：３０
場　所：武蔵野スイングホール　北棟２階　イベントホール（ＪＲ「武蔵境駅」下車 北口徒歩２分）
参加費：無料（どなたでも参加できます。）
☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：２単位　※詳細は当会ホームページをご覧ください。

◆ＮＰＯ法人 西東京臨床糖尿病研究会　糖尿病災害医療対策プロジェクト講演会 申込不要

テーマ：『首都圏直下型地震と糖尿病治療～そのとき医療者はどうする、患者はどうなる～』
開催日：平成２５年３月１１日（月）１９：２０～２１：００
場　所：立川市女性総合センター アイム・ホール（ＪＲ「立川駅」下車 北口徒歩７分）
参加費：無料
☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：４単位　※詳細は当会ホームページをご覧ください。

◆第３回 糖尿病と認知症研究会 申込必要

開催日：平成２５年３月１６日（土）１６：００～１８：４０
場　所：三鷹産業プラザ　７階　703・704・705会議室（ＪＲ「三鷹駅」下車 南口徒歩７分）
参加費：無料（軽食のご用意あり）
申込み：同封のお申込み用紙にて、ＦＡＸでお申込みください。（締切：３月８日（金））
ＦＡＸ：042-526-4698（宛先：ＭＳＤ㈱　中嶋）
☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：２単位
☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第２群＞：0.5単位申請中
☆日本医師会生涯教育制度：2.5単位申請中［カリキュラムコード 14.29.73.76.80］
☆日糖協療養指導医取得のための講習会申請中　※詳細は同封の資料をご覧ください。

□糖尿病診療－最新の動向［医師・医療スタッフ向け研修講座］ 第24回 東京会場 申込必要

開催日：平成２５年３月２４日（日）１３：００～１６：２０
場　所：国立国際医療研究センター　外来棟　５階　大会議室（東京都新宿区戸山1-21-1）
参加費：１,０００円（テキスト代を含む）
申込み：糖尿病ネットワークのＨＰよりオンラインでお申込みください。
http://www.dm-net.co.jp/event/2013_03_ncgm.html（締切：３月２１日（木））
☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：７単位　※詳細は当会ホームページをご覧ください。
☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第２群＞：１単位申請中

◆第１３回 西東京糖尿病心理と医療研究会 申込必要

開催日：平成２５年４月１４日（日）１４：００～１７：３５
場　所：三鷹産業プラザ　７階　703・704会議室（ＪＲ「三鷹駅」下車 南口徒歩７分）
参加費：当研究会会員・５００円（※受付で会員証をご提示ください）　一般・１,０００円
申込み：同封のお申込み用紙にて、ＦＡＸでお申込みください。（締切：４月８日（月））
ＦＡＸ：042-362-1602（宛先：ノボ ノルディスク ファーマ㈱ 鈴木・中村／問合せ：042-362-1601）
☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：４単位
☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第２群＞：１単位申請中　※詳細は同封の資料をご覧ください。

《発行元》
NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
http://www.nishitokyo-dm.net
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

《編集後記》

インターネット委員会創設にご協力をいただく代わり（?）に自動的に広報委員になって半年程になりますが、未だに慣れずにいます。さて、今号を見ても、糖尿病診療・ケアにはますます多職種の協力が欠かせなくなっており、またそれに対する保険診療の裏付けも徐々にですが始まっています。これからもその成果を発信するべく活動して行きたいと思いますので、ご支援のほど よろしくお願い申し上げます。（広報委員　西田 賢司）